

平成二十六年 大学院人文科学府博士後期課程第2期入学試験問題

(国語学・国文学)

一 別紙Aの影印を全文翻字せよ。(二〇点)

二 別紙Bの記事について日本語史的観点から分析を加えよ。(二〇点)

三 次の事項について知るところを記せ。(四〇点)

(1) 今鏡

(2) 浅井了意

(3) 言海

(4) 語用論

四 漢字の機能について論じよ。(二〇点)

別紙 B

洛浦

云洛浦モ昔年林濟下ニ在テ巾瓶取持ノ侍者ヲセテ
 老僧カ一筋ニタミキツタウツホノ實多トシセラレタ誰敢ノ怒クハ
 自家他家共此ノ矢先キニ回ル者ハ千萬人中ニモアルイハツテ
 放ツテラセラレタ如此頼母敷ラレキツテ御世在ル人カ案外ニ
 暇ヲ請ハレタホトニ翻テ去ルニ一関スエラレタハサリ共難達ナ
 在レ共洛浦ハサスカ家少戦イニ慣レタ何カ此度ナト云テニケヌ取
 即ス以テ開テハタト喝ソサテ按開テテ治納僧テハナイカ廻ラモ林
 際何ニカ詩レナサカ令々便打テホホ在ル是カ林際下送行ノ一自ホ
 ト云テニ老離袖ノ廻ソバト見様マ 代ハ錦綺段ニ梅園ヲスク
 々々詩各伯顔孫相カ元朝ノ時キ江南ヲ扱テ歸陳ノ底ヲ作
 タ江南ト云名譽ノ地ヲ扱メテ平ニ入レタホトニ七球萬寶モ多カ即
 ス在レ共其ノ財福ニハ目シカケタ大瘦嶺ハ名ヲ得タ梅ノ道地ナト云
 テ立チ寄テ色ヨキ梅華一兩枝秀折テ鎖ノ引合ニ挿テ歸マ
 誠ニ花ヨリモイサキヨイ胸首冬ナニ老離袖ノ扱トノ内モ聞ヨウ
 云調頭鉄幣下百家ノ宛ト成タ林際ナホトニ亦年中瓶ヲ執持

云問モカテハ合メイホク御子宿中ニ無異歎テ洛浦モ終イニ
 結スサテ合メタ疾ク飛ノ白ウス終ニ傾又ニ辰テ亦年追慕レタ况
 ヤ自決シノ日ホト云テ何カアノシカクレウス當冬各々在寺セラレタト
 云九旬ナシテモ耳ニ前ノ事ハ一言モアルイ殊ニ自爲ノ自ニ至テ別
 ニ何テテ事カアラフニ只門前ノ野梅ヲ一兩枝折テ布巻挿テ下
 帰ラレウニ下ヨ言坐向石爲ニ世スカ山僧ガ鼻孔分亦各々モ耳
 衆ニ所ハサシテ即ニハ自決言ハ得ラレイメ當冬ハ真正舉揚
 ノ行處ナホトニ斐前ヨリノ自決ニ至ルニ終ニ容易ニ世又サテ
 少モ耳報ニトメラハ真ニ意趣ノ及タ事ヨト云處テ真正舉揚ノ
 禪ハ聞エタ

巨海代之抄上